

開発・研究よりも人に何かを伝えたい

株式会社毎日放送
放送運営局 送出部

松本卓紘

私は2015年3月に工学研究科知能・機能創成工学専攻を修了しました。在学中は中谷研究室でテンセグリティと呼ばれる構造体の研究をしていました。そして現在はテレビ局に勤務しています。放送運営局送出部という部署に配属され、生放送や収録素材などの番組本編にCMや提供テロップ等を加えて放送コンテンツを最終形に組み上げるテレビマスターという場所で働いています。

テレビ局では在学中に学んだ機械系の知識はほとんど使いません。情報通信系の勉強を基礎から勉強しています。それなのになぜテレビ局に就職しようと思ったのか。まずその理由について書きたいと思います。

そもそも僕が理系の道を選択した理由は日常にある様々な現象を解明したいという好奇心から生まれたものでした。なぜ虹ができるのか？なぜ救急車は音が変わるのか？たくさんの「なぜ？」を知っていくことがとても楽しく、その中で特に力学に興味を持ったので機械系の学部に進学しました。そのようなこともあり開発・研究の部署というよりも、知らないことをたくさんの人に分かりやすく伝えていきたいという気持ちのほうが強かったためテレビ局を志望しました。

そのため在学中でも「人に伝える」ということを重要なものと位置づけ、研究発表では発表のスライドや文言をどうすればもっと分かりやすくなるかを熟考しました。結果として大学4回生の卒業論文発表会の際に優秀賞をいただきました。研究成果としてはまだまだ未熟だったと思います。しかしこの賞は研究が採点者にしっかりと伝わったからこそいただけた賞であ

り、分かりやすく伝えるための努力が実を結んだと感じ嬉しかったです。そのときから「人に伝える」ということのやりがいや楽しさを感じました。

しかし、6年間この国立の大学で機械系を学んだ以上、その分野で貢献していくべきなのではないかと自問自答したときもあります。悩みました。そのとき、ある先輩から「たとえ機械系じゃなくても在学中に培った分析力や論理的思考力、表現力はどの分野でも活かしていける」とアドバイスをいただくことができました。このアドバイスによりテレビ局への思いを確固たるものにできたおかげで無事テレビ局に入社して現在の私がいます。

最後に私がテレビ局でやりたいことがあります。それは新しい「何か」を作っていきたいということです。テレビ局では1つのジャンルだけではなく多種多様な新しい「何か」を作ることができます。例えば新しいコンテンツや撮影方法、他には新しい伝送システムや放送規格なども作り出すことができます。部署異動は転職みたいなものと教わりました。他の部署の仕事を聞くと別の会社と思うくらい全く異なる仕事をしています。そんな部署にも異動することが考えられるので自分の3年後の将来でさえも全く見えません。今は未知なる道すら見つからない壮大な砂漠にいる感覚ですが、在学中に学んだことも活かしながらいつか新しい「何か」をたくさん創造しテレビというコンテンツをまた復活させていきたいです。

(機械 平成25年卒 知能・機能創成 平成27年修士)